

平成会通信

HEISEIKAI magazine

VOL.11

介護のいまを知り、
みらいを創る



さわやかな
秋を感じて

2023

秋

特集

日ごろから取り組む心掛けと備え
いのちを守る！ 平成会の防災

表紙／グループホーム縁 クレイシ エクレイシア ドツロン

施設だより

グループホーム 縁

長い人生の最後を心穏やかに過ごしていただくため
利用者様の気持ちもご家族の思いも大事に



最後のときまで 静かに暮らせる環境

自然豊かな里山のふもとの静かな住宅地に建つグループホームは、認知症状のある利用者様が、人生の最後の時間をゆったりと暮らす場所です。すべての職員が優しい声掛けや対応を心掛け、ともに過ごしています。

それぞれの気持ちを 尊重し、強制をしない

その日やることを決めても、無理にさせることはせず、利用者様それぞれの気持ちを第一に考えています。ご本人からは「居心地がいい」、ご家族からは「本人の笑顔が増えた」といううれしい言葉もいただいています。



平成会グループの各施設からのお便りをお届けします！

SHISETSU
VOL.11
DAYORI



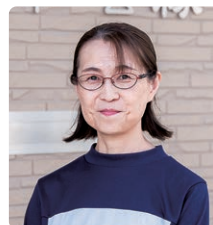
住所 長野県諏訪郡
下諏訪町社字
五反田7618-1

開設 2012年3月

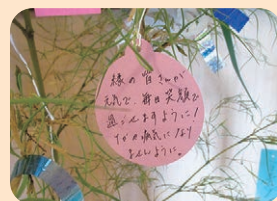
定員 18名(2ユニット)

管理者より

「縁」の立ち上げ時から勤めています。利用者様の人生の最後に立ち会えることはとても幸せ。心を開いて話しかけてもらえるように努めています。



藤森 悦子さん



積み上げた経験で 看取りの場も悔いなく

開設当初から、利用者様の看取りまで関わり、11年経って職員の向き合い方も成長しました。「私たちがやるべきことをやれた。やってあげられてよかった」と悔いのない気持ちで向き合える職員が育っています。

話題

Pick Up

▶ ケアハウス なごみ松本

松本市

オンデマンドバス乗降所が設置

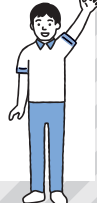
10月から松本市のAIオンデマンドバス「のーと松本」の運行が始まり、このたび、ケアハウスなごみ松本にも乗降ポイントが設置されました。「のーと松本」は走る道や時刻が決まっていない予約型のバスです。電話やスマホアプリ、LINEで予約をすると、予約をした時間と乗降ポイントにバスが来ます。ケアハウスなごみの利用者様はもちろん、地域の方々にとっても新たな交通手段になることが期待されます。



平成会通信
Vol.11

どんなつぶやきでもウエルカム！

誌面への
ご意見・ご感想
お待ちしております！



編集後記

先日、自分の住んでいる地区の防災訓練に参加しました。消火器の取り扱い訓練は、何度かやったことがあったためスムーズに扱うことができました。繰り返して行うことで、今までの訓練がきちんと身についていることを実感しました。災害は怖いけれど、訓練に参加することで、もしものときにはどうすればよいのか考える機会になりました。



なかはら



社会福祉法人 平成会

● ● ● 介護はこころ ● ● ●

真心と幸せ、そして心の豊かさを感じられる生活を送っていただけるよう、今日一日、その全てに一期一会の精神で臨み、「共に歩む」の法人理念を実践してまいります。



発行：社会福祉法人 平成会 〒399-6461 長野県諏訪市常盤1298-92 TEL 0263-51-6610 FAX 0263-53-5828 <http://www.heisei-kai.jp/>



▲ 停電を想定した地震訓練の様子
(9/27・有料老人ホームせせらぎ)

平成会の 防災

平成会では各施設において定期的に防災訓練を実施しています。防災意識を高め、有事の際の職員間の連携と行動について確認するためです。職員一人ひとりが状況に応じて適切な行動を取り、利用者様の安全を守るよう、真剣に取り組んでいます。さまざまな取り組みをご紹介します。



消防操法大会 に向けて 積み重ねる練習

10月15日に予定されていた岡谷市の「自衛消防隊消防操法大会」。初期消火・通報訓練と屋内消火栓操法の2部門に参加するため、平成会の4事業所、計5名の職員が、業務の合間を縫って懸命に練習を積み重ねました。本番の大会は雨天中止になりましたが、特定技能外国人職員が加わるなど、経験や知識にかかわらずすべての職員が防災への意識を深めることを目指しています。



緊張したが、教えてもらってだんだんできるようになった。一緒に訓練した日本人の職員ともコミュニケーションをとれるようになったことがよかった。

グループホームさわらび
ジャモトさん

練習を続けて、やる気が出てきた。訓練で学んだことを将来インドネシアに戻った時に教えたい。いい経験になった。

グループホームさわらび ラムロンさん



大容量の炊き出し用寸胴鍋「まかないくん」が全ての大型事業所(10事業所)に備えられています。ライフラインが止まった場合でも、灯油や薪で火をおこせば調理ができ、備蓄している食料が食べられるようになります。いざという時に戸惑わないよう、毎年この「まかないくん」で芋煮会を開いたり、とん汁を作り、操作を確認しています。

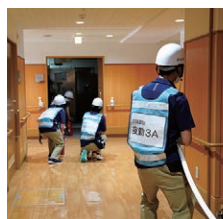
炊き出し用鍋 「まかないくん」

夜間の火災を想定した 総合防災訓練

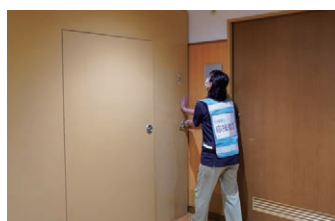
11月15日、有料老人ホームせせらぎ(塩尻市)で、夜間に火災が発生した想定での総合防災訓練を行いました。常駐する職員の数が昼間より少ない状況を踏まえ、訓練を担当する職員は少人数に設定。連絡を受けた応援者数名が時間差で到着して避難誘導に加わるという、夜間火災発生時のフローチャートに沿って行いました。火災警報器が作動した場所を確認し、まず全員で速やかに、消火器や館内の消火栓を使っての初期消火。消火に失敗した場合のフローチャートに従い、出火場所に近い居室から優先順に、利用者様の避難誘導を行います。居室扉にチェックを付けるなどしながら、残った利用者様がいないかを確認します。また、各階の防火扉を閉める、非常持ち出し品などを持ち出すといった、細かな役割についても実際に動いて訓練しました。



消火器と消火栓を使い、速やかに初期消火を図ります



慌てさせることなく、一人ひとりの状況を見ながら、利用者様を避難場所へ誘導



防火扉を閉めて各階の安全性を確保



避難を終えた利用者様には、落ち着いて声をかけます



終了後、塩尻消防署の方より訓練の総評をいただきました



消火器を使っての初期消火方法を屋外で実演訓練



危機管理室参事 熊井 政人さん

平成会では、火災・地震・大雨をそれぞれ想定した年3回以上の防災訓練を、全事業所に義務づけています。また近年は、実施日時と担当者だけを伝えるブラインド型がほとんどで、より現実的に即した訓練となっています。消防設備の設置や食料備蓄など物的な備えはもちろん大切ですが、いざという時にこれらを使う職員の防災意識が、より大事になります。せっかくの備えが活用されるには、やはり訓練を重ねるしかない。人の入れ替わる職場では、訓練の経験がない職員も入ってきますから、訓練を通じて動きを理解するだけでなく、火災なら「まず絶対に火を消す」、そして「利用者様を守る」、避難が長期化しそうなら「いい環境で過ごしてもらわなければ」という意識を持つ。このことが職員一人ひとりに求められます。今年は初めて特定技能外国人の職員が、本格的な消防技術の大会出場を目指して頑張りましたが、多種多様な職員が働く今の時代には、こういった考え方も必要でしょう。



櫻井 玲香さん

防火防災委員長として、訓練の内容を決めたり、消防署と連絡を取ったりしました。日中と夜間の設定は、年に各1回ずつ実施しています。今回は特に初動の部分を重点にしていたのですが、消火器・消火栓の使い方や防火扉の操作、情報共有など、基本がクリアできていて良かったです。職員は声も出ていたし、機敏に動いていました。訓練担当者の皆さんが事前に話し合うなどして、意識を高めていたのがよかったと思います。



中田 祐太さん

職員が大きな声でコミュニケーションを取っていたし、リーダー格の職員がきちんと指示を出していてよかったです。初動時の情報共有という面では、火災の発生場所や次の指示などを全館放送で伝えました。全員が同時に状況把握するためにいい方法でした。今回は、訓練の経験がある職員を中心としたメンバーが、経験の浅い職員にしっかりと背中を見せてくれたと思います。

大雨を想定した 災害対応訓練



9月1日、大雨による土砂災害の恐れがあるという想定で、介護老人福祉施設福寿苑と隣接するグループホーム歩歩清風(辰野町)で訓練を行いました。両施設の職員・利用者様のほか、介護老人保健施設わかかな、グループホームわかかな(箕輪町)の職員も合わせ、約60名が参加。利用者様の安全を守る訓練に取り組んだほか、搬送訓練を行い、災害時の施設間の連携体制も確認しました。

「近隣の施設間の応援体制が整っていることを心強く感じた」「車両での搬送訓練では丁寧な声掛けや安全運転を心がけ、利用者様の不安なく避難誘導できた」

参加した職員

ガイドラインに基づく 非常食の備蓄



非常用食品と、非常時炊き出しの必要備品を備蓄しています。非常用食品は、全ての入所系事業所の入所者数を対象に、3日・9食分の備蓄があります。水、個食または炊き出しタイプの主食(アルファ米)、副食、ビタミン補給を目的にした果物のほか、介護食として形態食を採用したり、賞味期限25年の長期保存食材を選んでいます。

平成会タイムス

TOPICS
1

認証審査に心強いフォロー！

ユマニチュード創設者ジネスト氏来所



ユマニチュード認証を目指す 6事業所

平成会では、法人の標準ケアとして、フランス発祥のコミュニケーション・ケア技法「ユマニチュード」の導入を進めています。一般社団法人日本ユマニチュード学会が、日本国内のユマニチュード認証機関として、ユマニチュードを正しく理解し実践していることを認める認証制度の運営も始まりました。

2022年度に全国20の病院・施設が認証制度のパイロット事業に参画。当法人からは、さわらび、掬水、わかな、せせらぎ、福寿苑、松風の6事業所が手を挙げ、技術の浸透、習熟を高めてきました。平成会では、認証を取得すること自体が目的ではなく、質の高いケアを実践するためのプロセスとして認証に取り組んでいます。

パイロット事業を経て、2023年度中に6



事業所が順次認証制度の本審査を受審することになっています。平成会のトップを切って9月にさわらびが受審。以降、12月、1月、3月に各施設で予定されています。

イヴ・ジネストさんが さわらびを訪問

9月9日、日本ユマニチュード学会の代表理事である本田美和子さん、ユマニチュードの創始者イヴ・ジネストさんら5名がさわらびを訪問し、現地審査が行われました。ユマニチュード技法の基本となる「4つの柱」「5つのステップ」の実践の様子などを審査されました。ジネストさんがちょうど来日していたことから今回実現したさわらび訪問。ジネストさんはほぼ1日中、介護実践の現場を回られ、職員一人ひとりに丁寧に技術の助言をいただきました。また、職員のケアを見守る中で「ベリーグッド！」と評価していただける場面もあり、職員は「自信になった」「大変感動し、勉強になった」と話しました。

「ユマニチュードは長く続く道です。本当に大切なものは目では見えません。心で見えるものです」という言葉をジネストさんからいただきました。



職員の感想

今後もスキルを磨き続けたい

ユマニチュードリーダーとして、今回の本審査に参加しました。法人内で最初という緊張感がありましたが、これまで職員全員で取り組んできた成果を見ていただけたと思います。



小澤 佑太さん

ジネスト氏から直接の技術指導！

入浴介助を見ていただき、とても緊張しました。自分が普段は意識していない点で、利用者様の負担にならないケアを、実技を交えて指導いただきました。今後の業務に活かしていきたいです。



赤間 春香さん

ユマニチュード 認証制度とは？

「ブロンズ」「シルバー」「ゴールド」の3段階で、レベルによって求められる基準が変わります。今回受審する「ブロンズ」認証は、基本の理解と導入がテーマで、①ユマニチュードに組織を上げて取り組む体制が整っている、②職員がユマニチュードの基本を理解し、実践に取り組んでいる施設が求められます。本審査では、2000からなる評価基準の達成状況や、一人ひとりのユマニチュードに対する習熟度を、現地調査により審査します。

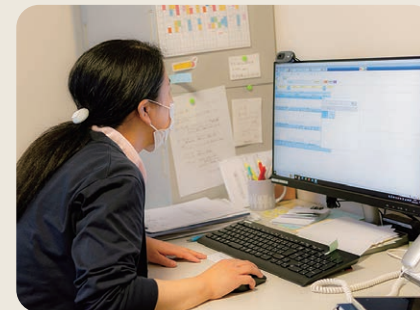
TOPICS
2

介護のこと、一緒に考えましょう！

居宅なごみ松本 2年ぶりの事業再開

2021年5月から休止していた居宅介護支援事業所なごみ松本（松本市）が、2023年6月1日から事業を再開しました。

居宅介護支援事業所とは、要介護認定を受けた利用者が介護サービスを利用するにあたって拠点となる事業所で、ケアマネジャーが常駐しています。ケアマネジャーは、利用者様の心身状況



“自分らしい暮らし”を一緒に考えます

や置かれている環境はもちろん、「どこでどんなふうに生活したいか」という希望に応じて適切な介護サービスを利用できるように、介護の計画書であるケアプランを作成したり、心身状況などの変化に応じてケアプランを見直したりします。利用者様に合った介護サービスを提供する事業者を見つけ、利用のための調整や、市区町村への要介護認定の更新や変更といった手続きも代行します。

ケアマネジャーは、たとえば「松本山雅FCの試合を観戦できるようになる」といった目標を設定し、それを実現するために適切な医療保険サービスや介護サービスを考えるスペシャリスト。歳を重ねても、自分らしく豊かで幸せな人生を歩むための方法を、一緒になって考えます。

管理者より



ケアマネジャーとして働き始めて7年目を迎えましたが、人生の先輩である利用者様やご家族様、関わる事業所様、行政の皆様から、日々たくさんのことを学ばせていただいております。平成会の法人理念である「共に歩む」を念頭に、利用者様、ご家族様の望む暮らしの支援ができるよう、お一人お一人としっかり向き合い、必要な支援が必要な時にご案内、ご提供できるよう努めたいと思います。

ケアハウスなごみ松本の利用者様以外にも、松本市内の在宅の利用者様も担当しています。皆様から「相談してよかった。お願いしてよかった」と言っていただけるような、安心感のある事業所を目指していきます。

山田 茉莉

TOPICS
3

特定技能外国人として8月から仲間！

インドネシアから12名の若い力が入職

8月21日に12名の特定技能外国人が来日しました。「母国の家族を助けたい」「日本の規律や働き方、文化を学びたい」「介護福祉士になって日本で長く働きたい」と、それぞれ夢と希望を持って日本の地を踏みしました。

平成会では2022年度から特定技能外国人の受け入れを始め、特養、老健、有料老人ホーム、そしてグループホームでも多く活躍しています。昨年来日した先輩方はすでに夜勤にも入り、日本語も驚くほど上達。事業所では、ユマニチュードの実践や消防操法大会のメンバーに選抜するなどさまざまな機会を提供し、彼らも積極的にチャレンジしています。今やさまざまな国籍、文化を持った人々がお互いを理解、尊重し、支え合うことが当たり前な多文化共生社会です。共に頑張っていきます。



とても明るく素直。そして元気な皆さんです！

Photo Diary

フォトダイアリー

2023
AUTUMN

夏祭りレポート



童心に返って

わたあめ、チョコバナナ、たこ焼き、焼きそば・・・出店風の食べ物や、ヨーヨー釣りにスイカ割り。暑かったですが、利用者様も職員も子どもの頃に帰ったみたいな笑顔でした。

辰野町

グループホーム 歩歩清風



暑さを忘れて笑顔！

暑かったので、室内の涼しいホールでヨーヨー釣り、輪投げ、金魚すくいをしました。お食事は利用者様のリクエストで焼き鳥を焼き、好評をいただきました。

岡谷市

グループホーム さわらび



飾りつけもにぎやかに！

飾り作りなどの準備も一緒に携わり、当日は射的で実力を発揮する方、カメ釣りに夢になる方、それぞれに楽しみました。最後は東京ブギウギで盛り上がりしました。

塩尻市

通所介護事業所 無暦日庵



線香花火づくりに挑戦

地元の花火業者の協力で、線香花火づくりに挑戦！細かな作業で少し苦戦しましたが、夕暮れ時に自作の花火を楽しむことができ、いい思い出になりました。

塩尻市

ケアハウス なごみ

注目！ の ニュース

地元塩尻の西部中学生が取材に！

塩尻市立西部中学校2年生が、「地元企業の紹介動画」制作を目的に、有料老人ホームせせらぎを訪れ、職員インタビューや動画の撮影に挑みました。



中学生自らが考えて地域活性化の種を見つける探究プログラム《ふるさと学》として、「地域の魅力を作りだしている企業を取材し、その企業の魅力を知ってもらえる動画を作成して公開する」という取り組みを行っている西部中学校。地元企業の一つとしてせせらぎを選んでいただき、9/6(水)、5名の生徒さんが訪問しました。

施設の特徴や設備、職員が働く姿、利用者様の活動の様子などの撮影が行われ、職員の想いを真剣に聴く皆さんの姿が印象的でした。中学生の目に「平成会の施設」「想いをもって働く職員」がどう映ったのか、興味深く感じます。動画は冬に完成予定とのことです。



うちの施設の

自慢のこんだて

JIMAN NO KONDATE

vol. 11

松本市

グループホーム おかだ

材料

サツマイモ・・・350g
米・・・・・・・・3合
酒・・・・・・・・大さじ3
塩・・・・・・・・小さじ1
枝豆・・・・・・・お好みで

つくりかた

- 1 米を研いで、30分ほど水に浸しておく
- 2 サツマイモを1.5cmくらいのサイコロ状に切り、水にさらしておく
- 3 炊飯器に米と水を入れ、酒、塩を入れてよく混ぜる。サツマイモを入れたら、4合分のラインまで水を足すとちょうどよい
- 4 炊飯器のスイッチを入れて炊く。炊き上がったたらやさしく混ぜ、お椀に盛って枝豆を散らす



サツマイモごはん

サツマイモは柔らかく、利用者様にも食べやすく好評です。地域の方が毎年「食べきれないから」と、夏はユウガオ、秋はサツマイモを届けてくださいます。感謝しながら、甘いサツマイモに舌鼓の秋です。

つくったひと

カバヤ タツオ
蒲谷 竜生さん



屋台メニューに大満足！

盆踊りや職員手作りのヨーヨー釣りで盛り上がり、お昼は焼きそば、たこ焼きの屋台メニューをお腹いっぱい食べて、たくさんの笑顔であふれた1日となりました。

茅野市

グループホーム 寿和寮